

すずむし

Vol 11 No 4

倉敷昆虫同好会

1962 Jan

目 次

○ 表紙デザイン.....友野良一	
○ <i>Symphyla</i> 第三報.....近藤光宏.....	1
○ 兵庫農大, 奥谷先生からの御依頼.....近藤光宏.....	3
○ アカスジチュウレンジの産卵.....近藤光宏.....	4
○ 倉敷のコガネムシ(2).....小野洋.....	5
○ おとしぶみ	
ブドウトラカミキリ倉敷に産す.....近藤光宏.....	6
井倉のフトコシジロヘバチ.....近藤光宏.....	6
○ 新着交換雑誌.....	6
○ 本年度の採集会予定.....	7
○ 編集後記.....	7

Symphyta 第三報

近藤 光 宏

ハバチは、竹内吉蔵氏の言によれば、完全にわかっていないが、日本全体では少なくとも800種は産するとされている。また奥谷順一氏は、大本日本では、一地域に200種は生棲するであろうといわれている。そして岡山県も全くわからないままであり、熱心に採集すれば、1~2年でまず100種位は採集できるとのことである。

前号にSymphyta 第二報としてTenthredinidae 11種とArgidae 5種について述べたが、その後同定の結果判明したものについて、新種?をまじえ以下にまとめてみた。

[Tenthredinidae]

19 *Strongylogaster secundus* Takeuchi

ナガゼンマイハバチ

浅口郎鴨方町遙願山(538 1961, 4, 23)

以前は本種に *Pseudotaxonus secundus* Takeuchi が用いられており、保育社発行の「原色日本昆虫図鑑」等も旧名になっている。

遙願山の中腹に大小二つの池があり、最近観光用にキャンプ村ができていたあたりの路上で、本種のみが相当個体からみあっており、その様子は、シオヤアブに似ていた。

本種は「体長11mm内外、本州、四国、九州に分布し、各地に極めて普通で、成虫は4~5月頃に発生する、幼虫はゼンマイの葉を食す」とされている。

20 *Dolerus hordei* Rohwer

ムギハバチ

新見市井倉(1♀ 1961, 4, 29)

極似の種に *D. lewisii* ルイスムネアカハバチ, *D. yokohamensis* フタホシハバチ, *D. ephippiatus* オオムネアカハバチ, *D. coreanus* ツヤハラムネアカハバチの四種があり、区別しがたく同定を要する。「体長9mm内外、雌は全体黒色、本州及び朝鮮に産し、成虫は4~5月頃に出現し、幼虫はムギの葉を食害する」

21 *Macrophya carbonaria* Smith

オオクロハバチ

高梁市広瀬(3♀♀ 1961, 6, 18)

和名のごとくクロハバチの大型と思えばよくわかる。「体長12mm内外、日本全土、支那に分布し、各地に極めて普通で、成虫は5~6月に発生する。幼虫はニワトコの葉を食す。」

なお本種については市内の記録もあるが、倉敷市川入(1♂ 1960, 8, 4)

横田隆夫

この記録は採集月日に問題があるようで成虫発生期間は5~6月の年一回が知られている。

22 *Allantus luctifer* Smith

ハグロハバチ

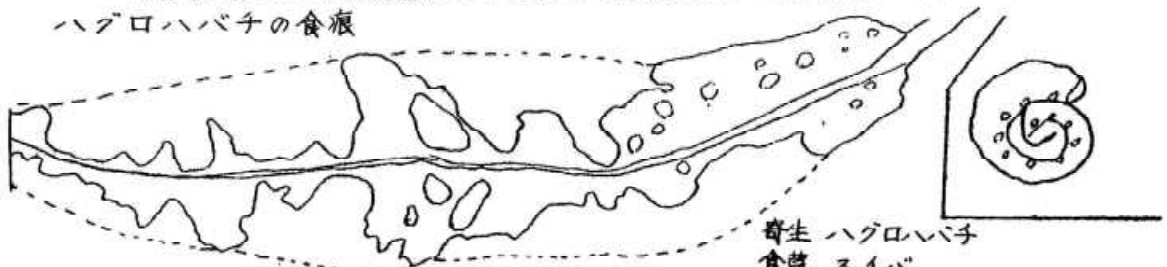
倉敷市連島町(1♀ 1960, 9, 17)

全(1♂ 1960, 10, 3)

全(2♀♀ 1961, 5, 13)

本種も和名のごとく前後翅共にやや褐色がかった黒色をしており、同定は容易である。

ハグロハバチの食痕



寄生 ハグロハバチ
食草 スイバ
月日 836.12.5

以上かかげたものと別に、同町内、玉野市荘内木目、鳥取県黒坂等で、計11exxを記録しており、後日に記したい。「体長9mm内外、日本全土、中国、シベリア等に分布し、各地に極めて普通で、成虫は4~10月頃に散発発生する。幼虫は水辺りにあるスイバ、ギンギン、イタドリなどの葉を食す」録者も採集した付近に密集しているイタドリから相当個体の幼虫を発見、飼育したが成功しなかった。

奥谷禎一氏の返事の中にも「幼虫を飼いますと普通では得にくいものがとれますから、飼ってみられることを、おすすめます。但しL0Pよりは大分むずかしい」とあり。筆者もこれまでに、カタアカチュウレンジ、イタドリクロハバチ、マツノミドリハバチ、チュウレンジ等を毎日の様に食草をとりかえて飼育したが、営巣したものは、少ない。又営巣しても完全に羽化するものは少ない。

23 *Nesotomstethus religosa* Marlatt

クロバノカマルハバチ

高梁市広瀬 (♂♂ 1960, 5, 22)

鳥取県黒坂 (1♀ 1961, 8, 4)

本種は、同好会の諸氏と広瀬、成羽方面の採集行で得られたものである。また今年夏有志によって、黒坂より花見(千屋)に越す途、小野洋氏によって記録された。

一見 *Athalia* 三種に酷似しているが、前後翅、胸背とも、ずっと黒みがかっており容易に区別できる。また♀は胸・腹共にふとく大きい。「体長8mm内外、本州、四国、九州の各地に極めて普通で、成虫は5月頃に発生する幼虫はボタンズルを食す。」

24. *Ametastegia poligoni* Takeuchi

イタドリクロハバチ

倉敷市連島町 (7♂♂ 1♀ 1961, 4, 22)

全 (1♂ 1961, 4, 19)

ハバチ科のものは、相対的に発生期間が短いですが、本種なども一週間で短かいものに入る。「体長7mm内外、本州及び九州に産し、成虫は5月頃出現する。(当記録は、やや早い)幼虫は、イタドリを食す」和名のごとく、成虫を採集した付近は、こんもりとした竹やぶにおおわれており、その下草とし、イタドリ(タニフウロウ又はミソフウロウと思われる)がはえていた。筆者も終令幼虫をしばらく飼育したが、営巣のさい、見うしなつたので、再び採集地を訪れ、幼虫のいた竹やぶの中の、ほとんど食害されて莖のみ残っているイタドリの下を相当綿密にさがしたが獲はみあたらなかった。なお営巣及び蛹化は、朽木中で行われる。本種に酷似せるものにフウソウハバチがいる。

25. *Emphytus meridionalis* Takeuchi

倉敷市連島町 (1♀ 1961, 4, 6)

全 (1♂ 1961, 4, 13)

本種については、まだ和名は考えられていない。倉敷市連島町内の高梁川外堤に自生するノイバラの葉上において、1961年4月4日~4月22日の間に20♀♀ 11♂♂を記録している。その後引続いて幼虫を多数個体発見することができ、おそらくノイバラを食すものと思われる。

26 *Pachyprotasis pallidiventris* Marlatt

コシマハバチ

倉敷市連島町 (1♀1♂ 1961, 4, 4)

前種同様イバラの葉上で1960~1961 4月3日~4月20日間に17♀♀ 8♂♂を記録しており、発生期間等から、前種、*Emphytus meridionalis*、及び *Macrophya coxalis* と混棲するものと思われる。

27 *Dolerus* sp 倉敷市連島町(1♂ 1961, 4, 4)

「何れの♂か不明、はじめてこんな♂を見た」の答えがありました。

体長9mm、体全体黒色だが腹部等三節のみうすくなっている。

28 *Tenthredoopsis* sp

新見市井倉 (1♂ 1960, 5, 3)

前種同様 *Tenthredopsis* の一種だが、何れの♂か不明」のお答えがありました。

体長10mm, 胸背に黄紋しつ、腹背第4~7節にわたって、えび茶の長紋を有し、足も基部において黒からえび茶に変わっている。触角は大変長い。

29. *Pachyprotasis* sp

鳥取県大山 (1♀ 1960, 7, 3)

「恐らく new この種は未だ完全にわかっていない」との知らせがありました。

体長9mm位、体背面黒色、胸背に白の紋がある。触角及び後脚は長い

[Argidae]

30 *Arge rejecta kirby*

カタアカチュウレンジ

倉敷市運島町 (1♀ 1960, 9, 12)

全 (2♀♀ 1961, 5, 13)

全 (1♀ 1961, 5, 16)

本種は、ハバチ等二種13で述べた *Arge captiva* Smith と酷似するが、顔面のY状隆起のちがいで分けて分類している。「体長8mm内外、本州・四国・九州の各地に普通で、成虫は、5~9月頃までみられる。幼虫はナワシロイチゴ(新昆虫)の葉を食す」現在筆者宅の崩背箱では1961. 9上旬本種幼虫数個体が営繕している。

[Siricidae]

31 *Tremex longicollis* Konow

ヒラアシキバチ

倉敷市東町端形山 (3♀♀ 1961, 10, 8)

全 (7♀♀ 1961, 10, 22)

本種については、前号に報告しているが、念のため同定を依頼しました。

以上 *Tenthredinidae* 11種 *Argidae* 1種 *Siricidae* 1種について報告致しました。

最後に、同定をお願いした、兵庫農科大学助教授、奥谷禎一先生には、再度の依頼にもかかわらず、快く引受けて下さり、衷心より感謝する次第です。

兵庫農大 奥谷先生からの御依頼

近 感 光 宏

「岡山県下のノグルミに *Symphyta* (ハバチ科) の幼虫が発生するらしいが当地篠山町付近には、ノグルミがないので、飼育不能である。心掛けて是非飼ってみて下さい」との依頼があり、筆者一人では、どうも不可能であり、本会の皆様方にお知らせして、御協力をお願いする次第です。

Symphyta の多くのものは、成虫発生期間が短かく、その上年一回発生であることなどから研究を進めるのに困難な点が多く、未開拓な分野も相当あることはすでに報じている。しかし逆に考えてみれば、それだけに興味あることとも云えよう。

成虫発生は4~6月頃に集中しているので本種幼虫の目につくのは、約1ヶ月遅れと考えると4月下旬より6月下旬に、幼虫は発見可能である。

当のノグルミは倉敷付近にもかなりあり山地では、更に沢山自生しており、ぜひ私達の手で判名したいものです。以前には、ノグルミから *Takasago* (カミキリ) を採集したことを記憶しています。

アカスジチュウレンジの産卵

近 藤 光 宏

本種 *Arge nigrinodosa* Motschulsky の記録は、前号 Vol. 11. No. 2 に *Argidae* 中、最も普通な種として、すでに報じている。そしてバラの葉を食草としていることも知られている。

筆者は、以下の条件において、本種の産卵を目撃し観察し得ました。
 〇倉敷市連島町宮之浦 標高約 100 m の大平山山腹
 〇 1961 年 5 月 13 日、午後 5 時 30 分頃
 〇 ノイバラ科の一種

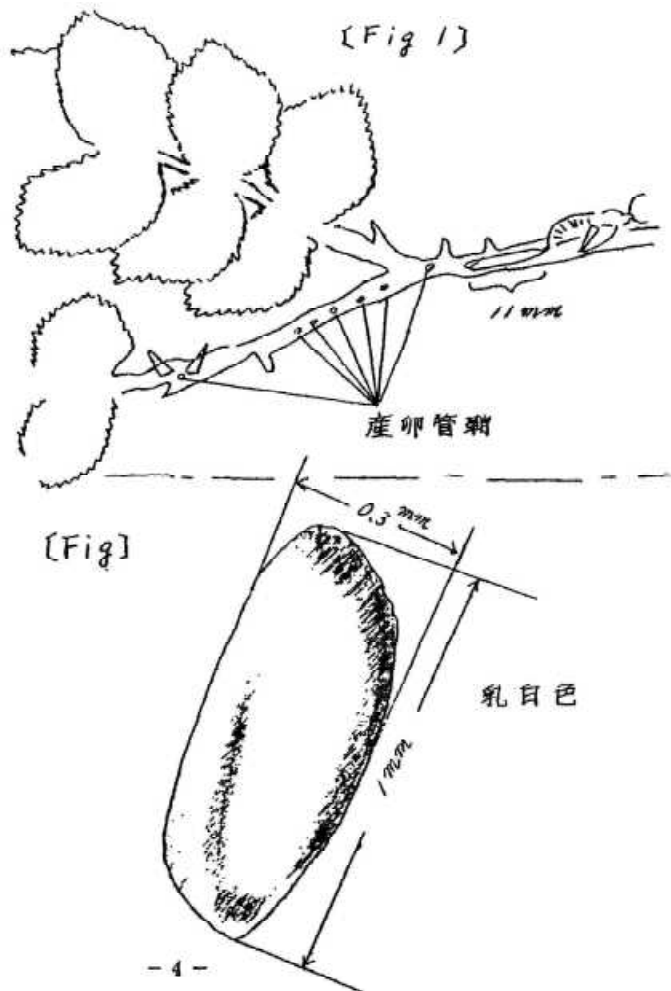
6 時 30 分まで約 1 時間観察を続けたが、動きは殆んど見られなかった。Fig 1 のように成虫は莖に産卵管を注入したまま、時折触角を上下に、また腹部を収縮させていた。莖には、数箇の産卵管鞘を挿入した後が残されており成虫は莖先から莖元へ移動したものであろう

産卵していた場所は、約 1.1 mm にわたり、産卵管鞘によって切開されており、2 卵を発見し得たが数箇の挿入後からは 1 卵も発見できなかった。産卵に用いた時間は、はっきりいえないが、移動して現在位置へ着き目的を達するまでに相当かかっているものと思われる。

発見された卵を、 5×10 位に拡大して観察したところ乳白〜淡黄色をしており、莖の脈にそって細長く位置していたのであろうか、Fig 2 のように巾 0.3 mm 長さ 1 mm 即ち 3:10 の比を示していた。

以上決して十分ではないが、観察したままを報告致しました。

なお産卵習性については、奥谷積一氏が、『生態昆虫』Vol. 6, No. 16 (1957 年 12 月) P139~150 に「広腰曲目の生態に関する問題点」としてかなり詳しく述べられている。即ち、本科 *Argidae* は、*Siobla* 及び *Cephalidae* ヲキバチ科等とともに、莖組織内内部（外皮内部の意）に産卵されるとあり一致している。又卵の形についても、大体莖や中切に産む型で、管束に平行に産む



ものは長い形のもが多く、ポブラハバチ 3:1, イタドリクロハバチ 11:4, ナヤイロハバチ 5:1 とあり、本種アカスジチュウレンシについては、述べられていない。

最後に、参考資料を快く提供して下さいました、本会小野洋氏に感謝します。

倉敷のコガネムシ (2)

小 野 洋

先に(本誌 Vol. 6, 私 1) 倉敷付近のコガネムシのうち、コフキコガネ亜科のものについて報告しましたが、今回はスジコガネ亜科で今迄に記録されているものについて報告し、御参考に供したい。一部の御同定をいただいた京都府立大学中根延彦先生に感謝の意を表す。

KUTELINAE スジコガネ亜科

1. *Anomala cuprea* HOPE ドウガネブイブイ
小黒田(1 ex, VI-19, 1948)極めて普通
2. *A. viridana* KOLBE ヤマトアオドウガネ
老松町(1 ex, VII-2, 1949)普通
3. *A. rufocuprea motschulskyi* HAROLD ハンノキコガネ
倉敷市(1 ex, VII-1952)
旭町(1 ex, VII-24, 1948)極めて普通
4. *A. daimiana* HAROLD サクラコガネ
老松町(1 ex, VII-23, 1948)普通
5. *A. geniculata* MOTSCHULSKY ヒメサクラコガネ
老松町(1 ex, VII-28, 1948)普通
6. *Mimela splendens* GYLLENHAL コガネムシ
小黒田(1 ex, VII-19, 1948)
小黒田(1 ex, VII-10, 1949)普通
7. *M. testaceipes* MOTSCHULSKY スジコガネ
岡山(1 ex, VII-30, 1952)多くない
8. *Phyllopertha orientalis* WATERHOUSE セマダラコガネ
佐吉町(4 exx, VII-27, 1949)普通
9. *P. conspurcator* HAROLD カタモンコガネ
帯広(1 ex, V-3, 1949)普通
10. *Popillia japonica* NEWMAN マメコガネ
美和町(1 ex, VII-18, 1948)
小黒田(2 exx, VII-10, 1949)極めて普通
11. *Acroetus tenuimaculatus* WATERHOUSE ナヤイロコガネ
岡山(1 ex, V-23, 1948)普通

このほか本亜科のものには不明の若干種が記録されており、また今後かなり追加される見込みである。

ブドウトラカミキリ倉敷に産す

本種 *Xylotrechus pyrrhoderus* Bates : ブドウトラカミキリを倉敷市連島町で、1961年9月22日に記録した。採集者は、当時連島北小学校6年在学中三宅孝司君である。

本種は、クビアカトラカミキリに似ている前胸は全く赤い。7~10月に出現し幼虫は、ブドウの害虫として有名であり、当地方は、みかんと共にブドウの産地であり、児童の中には、まだ目撃したこともある。ここに倉敷産として、採集者に従って報告しておきます。標本も筆者が所蔵しています。
(近藤光宏)

井倉のフトコシジロハバチ

本種については、すでにハバチ第二報として記録されているが、その後の採集会で再び記録できたので報告します。

Corymbas nipponica Takeuchi

新見市井倉 1♀ 1961.5.7

(近藤光宏)

新着交換雑誌

北九州の昆虫	7(2)	1960.Ⅷ.31	北九州昆虫趣味の会
北九州の昆虫	7(3)	1960.Ⅷ.20	北九州昆虫趣味の会
WORMSHIP	51	1960.Ⅸ.10	北九州昆虫趣味の会
WORMSHIP	56	1961.Ⅹ.20	北九州昆虫趣味の会
駿河の昆虫	28	1959.Ⅻ.31	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫	29	1960.Ⅰ.31	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫	30	1960.Ⅱ.25	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫	3	1960.Ⅲ.20	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫	34	1961.Ⅳ.30	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫	35	1961.Ⅴ.31	静岡昆虫同好会
蛾類通信	20	1960.Ⅵ.20	日本蛾類学会
蛾類通信	21	1960.Ⅶ.20	日本蛾類学会
蛾類通信	22	1960.Ⅷ.30	日本蛾類学会
蛾類通信	23	1961.Ⅷ.30	日本蛾類学会
蛾類通信	24	1961.Ⅷ.15	日本蛾類学会
蛾類通信	25	1961.Ⅸ.10	日本蛾類学会
New Insect	5(14)	1961.Ⅴ.31	北信昆虫同好会
New Insect	6(15)	1961.Ⅵ.30	北信昆虫同好会

すずむし第11巻第4号

昭和37年1月19日印刷

昭和37年1月20日発行

編集兼
発行所 岡山大学大原農生物研究所
害虫部第2研究室内
倉敷昆虫同好会

印刷所 岡 崎 印 刷